

Ⅲ 出血時の止血法

一般に体内の血液の20%が急速に失われると出血性ショックという重篤な状態になり、30%を失えば生命に危険を及ぼすといわれています。したがって、出血量が多いほど、止血手当を迅速に行う必要があります。

出血時の止血法としては、出血部位を直接圧迫する直接圧迫止血法が基本です。

直接圧迫止血法

1 出血部位を確認します

2 出血部位を圧迫します

- きれいなガーゼやハンカチ、タオルなどを重ねてきず口に当て、その上を手で圧迫します。
- 大きな血管からの出血の場合で、片手で圧迫しても止血しないときは、両手で体重を乗せながら圧迫止血をします。

ポイント

- 止血の手当を行うときは、感染防止のため血液に直接触れないように、できるだけビニル製やゴム製の手袋またはビニル袋を使用します。
- 出血を止めるために手足を細い紐や針金で縛ることは、神経や筋肉を損傷するおそれがあるので行いません。
- ガーゼなどが血液で濡れてくるのは、出血部位と圧迫位置がずれているか、または圧迫する力が足りないためです。

119番通報が必要な場合

- 大量に出血している場合や、出血が止まらない場合、ショックの症状がみられる場合（p.29「参考 ショック状態への対応」参照）は、ただちに119番通報してください。

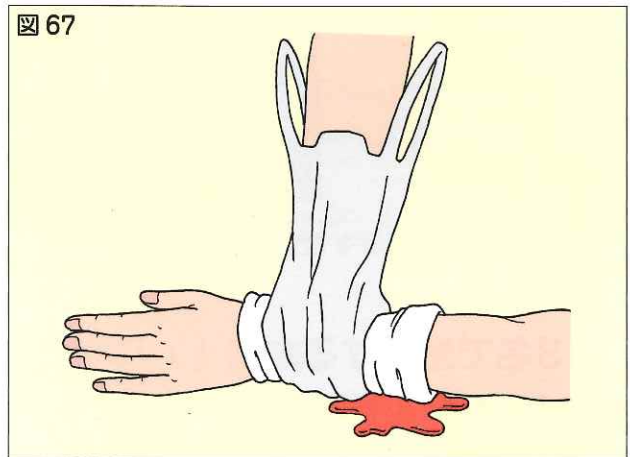
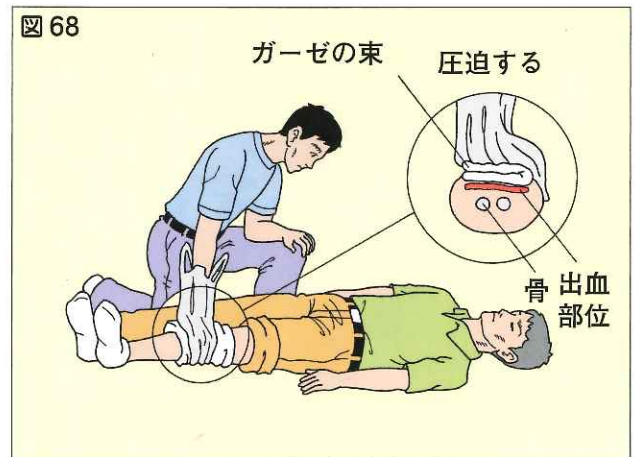


図 67 ビニル袋等を使用した直接圧迫止血法



直接圧迫止血の方法